



小竹川に歓声が上がりました。子ども達は今年も澄み切った川の中に足を入れ、水の気持ちよさを感じながら川遊びを楽しみました。「昨年はここにオオサンショウウオがいたんだよね。」と話しながら網と箱眼鏡を覗いているうちに、全身ずぶぬれになっている〇〇さん。「あ～、今日は楽しかったなあ～。」と自然の中での至福のひと時をかみしめていました。



赤屋学（ふるさと教育）

赤屋小学校では1～6年生までの6年間を通して、赤屋のすばらしさを学ぶ「赤屋学」に取り組んでいます。「環境」「交流」「歴史」「産業」の4つに分けて計画的に段階的に学習を進め、赤屋地域のすばらしさ、ここにしかない魅力や人のぬくもりを肌で感じて育っています。

ふるさと探訪(6/22) やっぱりこの地はすごいところ

今年のふるさと探訪は、草野、十年畑方面でした。「草野神社」では神社総代の妹尾秀樹様に、「国主神社」では齋木正保宮司様にお世話になり、お話を聞きました。

草野神社では興味深いお話が沢山ありましたが、その中でも一番は真空上人の即身仏化のお話でした。修行をつんでこられた真空上人は最期の時を知り、穴を掘りその中に鉦(かね)をもって端座(たんざ)、節を抜いた竹筒を入れて「読経と鉦の音が聞こえなくなったら入寂(にゅうじゃく:僧がなくなること)したものと葬ってくれ。」と遺言を残されたそうです。今も境内末社である皆山神社には真空上人の自刻像がお祀りしてありました。

国主神社では、大国主命が主祭神であり、境内にケヤキの老木がありました。昭和45年に枯れたため伐採されたということでした。年輪を数えて樹齢は約千年であったとのことでした。また、神社にお参りするときの「柏手をたたく」作法の意味について教えていただきました。神様にはお願いごともですが、感謝の気持ちでお参りすることが大事であると教わりました。そのほか旧暦の6月14日に行われる大祓祭「茅の輪くぐり」が特殊神事として行われていることや、鳥居には、「大祓詞(おおはらえのことば)」の一部が刻まれているなど、児童は興味深くお話を聞いていました。

古の舞台であるこの地に、千数百年の歴史が伝承されている史跡や建造物が残っている素晴らし

さを改めて感じる事ができました。

当日ご協力いただきましたお二人の講師の皆様、赤屋交流センターや安来市関係部局の皆様、お世話になりました。



伯太川探検隊(6/30)

伯太川の美しさを守りたい

3、4年生はバスに乗り、伯太川について水質調査に出かけました。調査を行った地点は伯太庁舎前、安来運動公園付近、新飯島橋付近の3か所でした。子ども達はCOD(水質を表す数値)を使って調査し、下流に行くほど、水質が悪くなっていることを知りました。上流である赤屋を流れている川の水はとてもきれいであることや、このきれいな川を守っていかねばならないことを強く感じて帰りました。



AIに負けない メディアコントロール週間

健康委員会の呼びかけによる「メディアコントロール週間」をさらに強化できるように、情報委員会も一緒になって「チャレンジ読書」「親子読書」の取組を併せて行いました。その中で、ご家庭でのご協力もいただきながら、子ども達はよく頑張りました。

また、7月の学習公開日には「メディア・ゲームの危険性」と題して「島根の子どもとメディア研究会」佐々木明美先生にお越しいただき、3年生から6年生までの児童と保護者、教職員を対象に講演を聴きました。

佐々木先生からのメッセージは「自分で自分をコントロールする力を身につけよう。」「将来どんな大人になりたいか、なりたい大人になるために何をすれば良いか考えよう。」「ルールを決めるのと同時に、守られなかった時のハンディも決めること。」「困ったときには、信頼できる大人に相談すること。」でした。

夢や志をもって、将来AIに負けない創造力や表現力を発揮できる大人になれるよう、メディアを上手に活用しなければなりません。AIに負けてはなりません。

